

「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年12月10日（金） NO26 文責 木下 文秋

生徒玄関で思うこと

毎朝7時15分から生徒玄関に立ち、生徒の登校を出迎えて9ヶ月過ぎます。登校を迎えながら色々な様子を見てきました。今は7時15分に玄関を開けるようにしていますので一番早い生徒はそれと同時に玄関に入ります。いつも決まって同じ友達と登校してくる生徒もいれば、いつも2人なのに1人の時もある「どうしたのかな」と思うこともあります。殆どの生徒は毎朝ほぼ同じ時間に玄関を通過していきます。そんな毎朝ですが、4月に比べ変わったと思うことがあります。それは生徒の方が先に「おはようございます」とあいさつしてくれるようになってきたことです。毎朝の事なので私にはよくわかります。これは明らかに変わりました。

4月はあいさつをすることに慣れていないのか、声も出ないし正直残念な思いをしていましたが、今は驚くほど成長しました。人が社会に出て最も大事な習慣として「あいさつをする」「返事をする」「時間を守る」ことがあります。いつも同じ所に私が立っている光景を見て、あいさつをすることが朝のルーティンになってくれればうれしく思います。1ヶ月前、生徒会役員を連れてある学校の朝のボランティア活動を視察してきました。その学校では有志の生徒が毎朝、運動場の草取りや落ち葉拾いをしています。その様子を見せたくて、支所の方をお願いをしてバスを出していただきました。ボランティアをすることは「徳を積む経験」となります。徳という言葉は、人や地域の役に立つ行動を意味します。徳を積むことで「自分自身に自信がつく」と考えています。そして、その自信は「個人の成長」につながるはずで、スポーツの世界でも野球やバスケット、ラグビーなどの強豪校が会場に入るなり、周辺のゴミ拾いをするのはよくある話です。この行為はいいことをして神頼みをするという意味ではなく、日頃からそういう活動を重ねていて平常心になるという意味合いです。現在生徒会を中心に有志の生徒が朝のあいさつ運動や校門前の清掃活動などをしてれています。朝の短い時間ですが、早朝から生徒が活動する姿を見ると元気が出ます。ボランティア活動は無理なく一定のルールの中で、時間や場所を決め計画的に行うことで継続すると思います。高城プライドの一つとして期待しています。そして「徳を積む経験」は、きっとあなたを成長させると信じています。